

テックタイルを施工した編集部ガレージ 1年間の過酷な使用に耐えられたのか!?



2022年

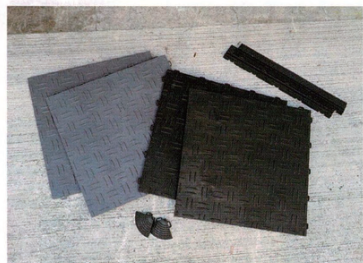
2023年

●上は昨年10月の施工直後、下はちょうど1年後となる今年10月の編集部ガレージ。原付二種からリッターオーバーの超重量級バイクまで日々さまざまなバイクが入り入れられているが、汚れこそあれどタイル自体に変わったようは見られない

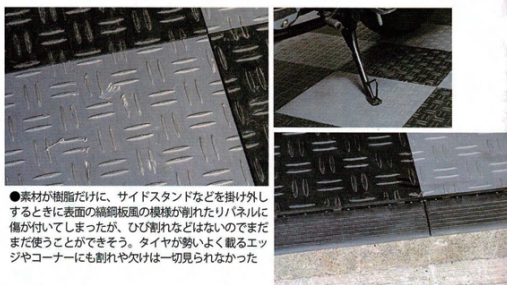
TEC Tile

テックタイル

サイズ:330mm×330mm×13mm
重量:約490g
価格:990円(1枚)



- タイルを載せた四隅に取り付けるエッジ (440円) やコーナー (220円) もラインアップ。それらを組み合わせたセットも用意されている。バイク用は下記の4タイプで、いずれもカラーは13色から2色を選ぶ
- バイク-1セット (1090mm×2410mm、タイル21枚): 3万470円
- バイク-1Lセット (1420mm×2740mm、タイル32枚): 4万3120円
- バイク-2セット (2080mm×2410mm、タイル42枚): 5万3900円
- バイク-2Lセット (2080mm×2740mm、タイル56枚): 6万9520円



●素材が樹脂だけに、サイドスタンドなどを掛け外しするときに表面の縮退風の模様は割れたパネルに傷が付いてしまっただけで、ひび割れなどはないのでまだまだ使うことができそう。タイヤが擦れにくいエッジやコーナーにも割れや欠けは一切見られなかった



レースピットでも映えるカラーと優れた機能性

●テックタイルは、全日本ロードレース参戦中の「日本都府Honda Dream TP」のピットにも使用されており、その機能性と華やかな演出でチームを応援している

重量級バイクでも問題なし!
本誌編集部ガレージはバイクメーカーの試乗車やスタッフの愛車が毎日、何台も出入りする。300kg級の大型車を止めることも多々あり、使われ方はかなりの過酷だ。そんなガレージの床に昨秋、合成樹脂パネルのテックタイルを施工。縮退板模様の2色のパネルを敷いたガレージは見栄えが格段に良くなり、さらに雨が降ったときの滑り止め効果も発揮している。あれから1年、敷かれたテックタイルはどうか? バイクは大切に扱って木床材に気を配るスタッフは皆無なのに、ポロポロになっただけだろうか? ...そんな不安は杞憂に過ぎなかった。一部割れた箇所はあったものの、割れや欠けは皆無。それどころは、1枚490gと軽量が、裏面に補強の多層リブを設けて、圧縮治具径の50mmで約80kg、φ200mmでは約8トンの耐荷重を実現。実際には3トンの耐荷重を、実際の4トン以上の重量を載せてもびくとしない。なお、パネルは1枚単位で交換できるので、万が一破損しても補修コストは最小限で済む。施工はパネル同士をはめ込むだけなので取り外し・再施工も至簡単。せっかくガレージを建てるのなら、テックタイルで自分好みの配色の床に仕上げてみよう。さらに愛着が湧くはずだ。

安全に横移動&方向転換できる ガレージライフの必需品!

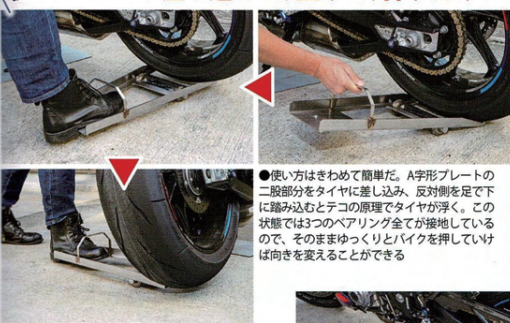


ATLAS BIKE LIFTER®

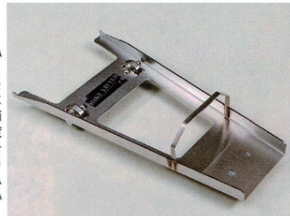
アトラス バイクリフター

価格●1万6280円
サイズ●縦545mm×横275mm

使い方は簡単! 差し込んで、上げて、押すだけ!

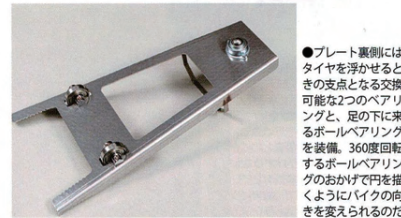


●ステンレス製のA字形プレートは、300kgを超えるような超重量級バイクにも対応できるよう両端を折り返して強度を高めている。足を引っ掛けやすいように設けられたアームは持ち運ぶときのハンドルにもなる



●使い方はきわめて簡単だ。A字形プレートの二段部分をタイヤに差し込み、反対側を足で下に踏み込むとテコの原理でタイヤが浮く。この状態では3つのペアリング全てが接地しているので、そのままゆっくりとバイクを押していけば向きを変えることができる

●公式サイトでは、バイクを動かしたときにサイドスタンドを引きずらずにガレージの床が傷つくのを防ぐメタルプレート (幅240mm×奥行550mm×厚さ2mm、価格: 2980円) も販売中。ぜひ一緒に購入したい



●プレート裏側には、タイヤを浮かせるときの支点となる交換可能な2つのベアリングと、足の下に来るボールベアリングを装備。360度回転するボールベアリングのおかげで円を描くようにバイクの向きを変えられるのだ

本誌ガレージでも大活躍
誌面に登場するバイクのほとんどは、バイクメーカーやショップの試乗車、つまり借り物だ。そのため細心の注意を怠り得ない。そのため、重量級のバイクをガレージに出し入れするときは特に慎重になる。にもかかわらず、1台でも多くのバイクを置きたいので、隣のバイクにぶつけないよう注意しつつギリギリまで隙間を詰める必要がある。ギリギリまで詰めて置かれたバイクをガレージから出すときはさらに気を遣う。アトラスのバイクリフターは、一人でも安全にバイクの向きを変えられる。編集部にはなくてはならないアイテム。使い方は、タイヤの下に差し込んで持ち上げ、そのまま押し引きするだけ。テコの原理により大型バイクでも少ない力で移動が可能だ。端から見ていると不安定でぶらつきそうだが、実際にやってみると想像よりもずっと安定している。それもそのはず、「オートバイの移動用運搬台車、及びその運搬方法」として特許を取得したアイデア商品なので、3つのペアリングを備えたA字形のステンレス製プレートは強度も十分。複数のバイクを所有しているがガレージのスペースに余裕がないという人は、接触や転倒などのトラブルが起きる前にバイクリフターを導入しよう。